

---

# ネメシスとして幻想入り

xhanku

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

「」のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

## 【小説タイトル】

## ネメシスとして幻想入り

〔ZΠ-〕

N 5420Z

## 【作者名】

x  
h  
a  
n  
k  
u

【ぬりすじ】

目が覚めれば知らない森の中・・・

え? ビーーーー? 何この体、触手とか気持ち悪い! え? これが自分

?

不定期更新です。あと、作り直しましたー＾＾；

## ふわるーぐ（前書き）

作り直しましたー^\_^;

この回だけちょっと変ですが、次からは直します。

田が覚めれば森の中

待て、色々おかしい、そして何故か同様していないぞ

そういえば、こいつ『田が覚めたら知らないどこか』ってのは定番だよな・・・うん

ハハハ・・・きっとこれは夢の中だ！ そうに決まつてこりゃなきや背にこんな大木があるはずは無い！

・・・半径5mってところか？ 太すぎね？

えーい！ 考えに深すぎでは進まない！ 道は進むために前にあるのだ！（誰かの言葉）

さあー立ち上がり！ 僕ええええええー！ ー！ ー！ ー！

「ガチッ！」

ん？ 金属音？

なんで立ち上がったときに金属音？

足元には草とか土とかしか無いは・・・ず・・・

うん、無いよね？ 足元に危険な鉄の砲筒とか沢山の筒が着いた回転する鉄砲なんて、存在してないよね？！

あれか？ もしかしてあれなのか？！ 『転生しましたー、チート升選

ステインガー ミサイル

ばせると面倒なので、テキトーにやつちやいました』 つてやつなのか？！

・・・とつあえず、拾つておひや。

「ステインガー ミサイルを拾つた。」

・・・どうじよつ、頭が付いていかない・・・ Help Me E

EEERRHNNNN!!

あ、ついノリで友達の真似しちゃつた

じゃねえ！ そうじやねえ！ 有名なホラーゲーのバ オのアイテム捨てたときのテロップみたいなのが流れたけど？！

つてことは、探せばあの有名な回復アイテムもあるつてことか？

とつあえず、探してみよう

「ハーブを拾いますか？」

> はい

いいえ

あつた・・・しかも今度は選択肢付きで・・・

とつあえず、『はい』を選ぶだろ。

「ハーブを拾いました。」

うおーなんだか面白くなつてきましたー。だから、これどうして使うんだ？

あ、なんか田つぶつたひ、ちつぱんのあの有名なバイ のメニューが開いた。

・・・言つたことは正確であるナビ、とつあえず頭の鎮静用に、ハーブを

え？何これ？ハーブって回復アイテムでしょ？あ！そつか！調合すればいいのか！なら他にも探さなきゃだな！

ハハハ！俺ってばてーんそーい！

じゃあ、もう一つの鉄砲を取つて「M202//I-ガンを拾いました」さっそく薬草探しだ！

・・・よし、とりあえず現実逃避はこのくらいでいいだろつ。

何？このロングコートと巨体は。

しかも堅くて屈強だし。

あと何気に腕に触手が入つてるんだけど。気持ち悪！

ん？この触手って、尖つてないか？

ロングコート+巨体=巨人

巨人+触手=この組み合わせはどう考へても『生物兵器』

B・O・W+ロケラン+ガトリング＝・・・追跡者？

絶対そうだ！そうに決まってる！じゃなきゃ！」んな物やこんな体をしているワケがない！

よし！それで確定！」の話はもつ終わり！じゃあ目的を戻してハープ探しだ！

では！出発！「わはーーおーしおうのがいたのだーー」・・・誰？！

え？何もいなくね？じゃあ誰の声？

「！」なのだーー！」うーん、頭をひねつても答へは出ないなあー「無視するなーー！」だって、！」には俺と空飛ぶ幼女しかいないんだもん

「うー、食べてやるのだーー！」

「何を食べるの？」

「あーやっと返事してくれた！じゃあ早速、いただきまーすー！」

え？ちよーなんでこいつち来て・・・痛ッ！腕を噛むんじゃない！痛いってばーイタター！

## ふうひーぐ（後書き）

# 相変わらずの駄文力アーサー

ご指摘、クレーム、感想、アドバイス、その他もうもう何かありますからよろしくお願ひいたします。;

## 毎月7日は「モーなのかー」（前書き）

サブタイはいつも適當です。

あと

「DANGER！」この小説は、駄文という物が含まれています。丁  
ウイルス以上に危険です。」

毎月7日は「モーなのかー」

腕を噛まれて数秒後

「うえ～・・・不味いのだ～」

Side NEMESIS

目の前に頑垂れる少女を見ながら心中で『ザマアーッ～』と思つ

ている。

だが、流石に可哀想に思えたので、何か探してみる」とこした。

「ハンバーガーを拾いますか？」

＞はい いいえ

現実から田をそらし、そのハンバーガーを拾い、頃垂れる少女に渡した。

「これなら食えるだろ、食べてみ・・・奪い取るなよ」

「おこしこのだーー」

「そうか、それならいいんだ」

ちよつとカツコツけて喋つてみる。

「そりいえば、鬼さんはなんて名前なのだー？」

「ん？鬼？」

聞き捨てならないセリフ

「うん！だつて、人間の顔じゃないもん！・・・ちょっと怖い顔だから鬼なのだー！」

少女の「」とをよーく見てみると、赤い瞳で、金髪にリボン、服装は黒が主体

全体的に西洋風の美幼女。

そんな美幼女に満面の笑みで「怖い顔」と言われる。

「ああ、組長さん・・・いや、園長先生・・・あなたの気持ちが分かつた気がする・・・」

どつかの幼稚園の組長の気持ちを理解してしまった。

「ねえねえ、名前はなんなのだー？」

「え？あー」

迷う、激しく迷う・・・ できるだけカッコイイ名前で行きたいこところだが、流石にこの姿では無意味

「 は、本家を借りて、本当のことを言おう・・・

「俺は、ネメシちゅ・・・」

少女との間に、氣まずい沈黙が流れる。

(やべえ、噛んだ・・・ビリヒョウー。)

「・・・ネメシスさんなのかー、じゃあまたなのだー」

少女が氣まずい沈黙を破り、訂正してくれた。

そして、食べ物が無くなつたことが分かり、その場を去つていつた。

少女は、去り際に、頬を一やつかせていた。

「第一印象は大事なのに、それを思いつきりダメにしてしまつたなあー・・・」

なんとも言えない気持ちが、胸の奥でとぐろを巻いている。

そんな気持ちを忘れるため、またハーブ探しに戻った。

あの後、赤色と黄色のハーブが見つかった。

最初に手に入れた緑色のハーブと調合し、薬を作った後、その辺をテキトーに散策することにした。

毎月7日は「モーなのかー」（後書き）

・・・まづい、前作との「トジャヴ」な部分が・・・

やべえな・・・これなら削除する前の方がよかつたかも知れない

今になつて後悔

クレーム、レジ指摘、感想等々 お待ちしております。

ネメシスとは女神の名前だそつだ。（前書き）

サブタイはいつもどうづテキトー

あー そーそー、 “ www ” とかの表現が嫌いな人は、 ブラウザバッ  
クをオススメします。

ネメシスとは女神の名前だやつだ。

S i d e N e m s i s

調合したハーブ（赤 + 黄 + 緑）をを捨てよひと想つたが、やはり今後のためにとつておくことにした。

「しつかしあれだなー・・・なんでネメシスになつてんだ？俺

「説明 WWWしよう WWW

「あ、じゃあお願ひし・・・ねえよーしかも”へそつてゐ”の意味違つてるしー」

「え？！ WWW

つこ咳いてしまつた一晩に反応したゾンビ（^）が、近くの茂みから出でてきた。

ボロボロの服、所々欠けている皮膚、つめき声、完全に生ける屍である。

それなのに、”腐つてゐ”が”草つてゐ”になつて、”生ける芝生”になつていた。

「というより、説明つてなんだよ・・・」「

「ん? wwwあー www簡単 wwwに www言つ wwwと www君  
www転生 wwwした wwwの www」

サラッと衝撃発言（確定事実）を言い出したゾンビ（？）

「は? 転生? いや~・・・そういうのはみりや分か・・・つていた  
んだが、まさか本当だつたとは」

衝撃発言に衝撃を（少し）受けたネメシス

「 wwwあとな www升 wwwは www入つて wwwないよ www」

「はははー・・・は?」

だんだん発音が人語に似てきたゾンビが、更に衝撃な発言をする。

「だから www升 wwwは www入れられて wwwない wwwの www  
www俺 wwwも www転生 www者 wwwだから www分かる www  
www」

「そつなのか」

「うん www その www 追跡者 www の www 能力 www が www ついてる www だけ www 」

・・・ネメシスは、その追跡者の能力を知らなかつたため、ゾンビ (?) に聞いてみた。

「お k www 追跡者の能力は

なるほど、説明になると草らないのね・・・

## 追跡者 (Nemesis)

B·O·W·「タイラント」の性能向上のため、新開発した寄生型B·O·W·「NE」、通称「ネメシス」を寄生させた新型。

基本性能はタイラントと変わらないが、ネメシスの寄生により知能が格段に上昇することで、「より複雑な任務を自己の判断で継続的に遂行」、「ロケットランチャー等の武器使用」などが可能となつた。

また、回復能力の向上作用により、タイラントが危機的状況に陥る事によつて起らる「暴走」を抑える役目も持つてゐる。

NEMESIS-T型は、3つの形態を見せる。

### 第1形態

追跡者の最初の姿。

人間を大きく上回る巨体を持つ。

全身に防弾・対爆仕様の黒いコートを纏つてゐるが、これは暴走を抑えるための拘束衣という面も持つてゐる。

コートから露出した部分には、所々にネメシスの触手が巡る怪物じみた外見が確認できる。

素早く走りまわり、突進しながら殴りかかる、首を絞めた後に投げ捨てるといった攻撃を仕掛けてくるが、たまに首を絞めたまま腕から触手を繰り出してくることがある。

その硬度は人間の頭部を貫通するほどで、これを受けると即死してしまつ。

また、追跡者の至近距離から遅い攻撃をすると、素早く横移動して回避する。

## 第2形態

激しい戦闘により拘束衣は破れ、繰り返し与えられる肉体のダメージによりネメシス自体が肥大化、半ば暴走状態になりかけている。

腕部を縦横に巡っている触手により武器の使用が不可能になり、より激しい攻撃性を示すようになる。

即死攻撃が無くなり、攻撃力も第1形態より若干落ちているが、体力は高まっている。

右腕から垂れ下がった触手により突いたり掴んで叩き付けたりといった攻撃をしてくるが、第1形態に比べ動作が大振りなので戦いやすい。

## 第3形態

度重なる戦闘と特殊な薬液により限界を超えるダメージを受けたタ

イラントの肉体とネメシスが、お互いに暴走状態になり肥大化。

頭部や手足を失った肉体を異常発達したネメシス本体が補完し、仰向けの状態で四足歩行を行う。

腹部からは巨大な肋骨が牙のように突き出し、薬液の毒素により巨大な水疱が浮き上がっている。

最早知性を感じさせない外観になりながらも、任務遂行のためジルに迫つてくる姿はまさに「復讐の女神」の名に相応しい。

触手による攻撃のほか、体液を飛ばして攻撃してくる。

この第3形態はアメリカ軍特殊部隊がラクーンシティに持ち込んだ、コードネーム「パラケルススの魔剣」というレールキャノンを使わないと倒せない。

「で、そのNEMESIS-H-1型つてのが俺なワケ?」

「「」もつともwww

「いや、そんなこと言われても……つか、N-E-……ってなんだよ……」

「それは

NE -

アンブレラのフランス研究所で開発されたミニマズのような姿の寄生型B・O・Wで、通称「ネメシス」。

知能に特化しており、それ自体では何もできない。

他のT生物の脊髄に移植されるとその体内のT・ウイルスを取り込み増殖、延髄付近に独自の脳を形成し、宿主の脳機能を乗っ取り知能を支配、同時に細胞賦活成分を分泌し再生力を高める。

しかし、寄生された生体に非常な負荷がかかるため、元から強靭なB・O・Wでなければ耐えることができずに死亡してしまう。

「NE -」型のサンプルは、アークレイ山地の洋館の地下にある研究所にも届けられており、リサ・トレヴァーがその被検体となっているが、ネメシスは彼女の脳に寄生することなくその身体に取り込まれてしまっている。

「・・・聞きたいことは山々あるんだが・・・まあ、『ればば』の情報だ？」

「え？ wwwこれは wwwウイ k「ストップー・ストップー！」 www  
どうした？ www

ゾンビが、いけない発言をしそうになつたので、それを防ぐネメシス  
鬼のようなネメシスが、屍であるゾンビを止め・・・中々にシュー  
ールな画が出来上がる。

「あ www そうそう www の www 世界 www は www ほとんど  
www が www 能力 www 持つてゐる www から www

「え？ まじか？」

「うん www 僕 www は www『生ける屍と芝生を増やす程度の能  
力』だつてお www」

「あながち間違つてはいないな・・・」

（俺は・・・）

ネメシスは、自分の能力を探してみる。

『追跡する程度の能力』

『任務をこなす程度の能力』

「やつぱりか・・・しかも2つ・・・

「どうした? WWW」

「なあ、その辺は消せないのか？」「ううんだが……」

「無理だお~~~~」

「だよなー……いや、ちつき上げられたよな？」

「あれは~~~~あれ~~~~だから~~~~無理だお~~~~」

我慢できなくなつたネメシスは、頼み事をしてみたが、変な理屈で拒まれた。

「どうあえず、そのへんを散策するんだが、一緒に来るか？」

「あの~~~~流れ~~~~で~~~~何故~~~~まあ~~~~いいや~~~~  
~~~~行く~~~~」

〔ネメシスはゾンビを手に入れた〕

ネメシスとは女神の名前だそつだ。（後書き）

ネメシスと打ち込む時、ほとんどタイプミスで”ネメイシス”にな  
つちまう。」

あー・・・wwwって表現を使っちゃった・・・ざつせ黙文だから  
！・：

クレームだつてなんだつて来いよ！受けて見せようぞ！

あ、でもでも、感想とか指摘とかだったら嬉しいなー・・・

## 落散ルノ（前書き）

メツルイイイイイクツルイスツムアアアアアアス！－！  
訳：メリークリスマス

この小説では、ギャグやウケを重視していきたいんだが・・・

とりあえず頑張つて投稿していきます。

ちなみに、ゾンビの“ｗｗｗ”表現は以後継続されていきます故に、  
そのような表現が嫌いな方はブラウザBack！（キリツ

・・・をオススメいたします^ ^；

生ける屍改め、逝ける芝生を仲間にしてから、かれこれ数時間

「つ、ついに森を抜けた」

「うはwww広いwww湖www」

田の前に広がるのは濃い霧に包まれた湖

森を抜けてからその湖が地平線のよう広がっているので、広大であることは理解できる。

広い・・・ホントに広い・・・

ここでネメシスは何かをひらめく

「・・・そういうえばさあ、お前つて『生ける屍を増やす程度の能力』つての持つてたよな?」

「うんwww芝生wwwをwww増やすwww程度wwwのwww  
能力wwwもwww」

「その生ける屍を増やして進まないか?」

「無視wwwするなしwwwしかもwwwなぜwwwにwww」

ゾンビはスルーしたことを探し、応答ではなく疑問を返す

「いや、なんとなく」

「なんとなくwwwてwwwまあwww俺もwww使ってwwwみ  
たかつたwwwしwwwねwww」

とりあえず、ゾンビ地に耳を当て、目を瞑る。

見た目が屍なだけに、ビニからビニ見ても死骸になつた。

「あたいの縄張りに入るなんて！いい度胸ね！」

そんな死骸を眺めていると、背後の湖の方から声が聞こえてきた。

「おい・・・おまえはうはwwwチルノwwwじやんwww」

今度は死骸ゾンビの方から声が聞こえたから、またそつちに振り返つてみる。

・・・約20近くのゾンビが群れてチルノを見ていた。

「 大ちゃんwwwは?www」

「 (笑) www」

「 ?www」

「 カワユスwww」

「 うはwwwホントwwwだwww」

「おい・・・これは一体どういふことだ?」

「あwwwネメシスwwwだwww」

「ホントwwwだwww」

「うはwwwテラキモスwww」

「全俺wwwがwwwそのwwwキモさwwwにwwwワロタwww」

「触手www」

人数と共にレベルアップしたウザさに耐えつつ、産みの本体ソンビを探す。

・・・いた、物凄く見つけやすかつた。

量産されたゾンビは顔がニヤついているにも関わらず、本体は笑っている。

すぐその本体の元へとネメシスは向かい、一発その腐った腹に拳を叩きつけた。

「グハwww貫通wwwしてのwww痛そwww」

「本体www」

「……おこ、俺はあいつらも#n生が生えるなんて聞いてないぞ？」

「……反応が無い

「www」

「おい

「……反応が無い

「www」

「おイ」

「……反応が無い、ただの屍のようだ。

「じょひょ」「アタイを無視するなあーーー！」危なッ！

「グハwwwテラ痛スwwwワロエナイ」

頭に殴りを入れて、永眠させようと思った矢先、湖上空にいたチル

ノが結晶のようなものを大量に飛ばしてきた。

いや、結晶のようで結晶ではない尖った硬いもの・・・冷たい・・・  
氷だ

氷は未だに大量に飛ばされている。

そしてその氷が、ゾンビの集団にも襲いかかった

量産

「ちょ　ｗｗｗ」

「痛い　ｗｗｗ」

「死ぬ　ｗｗ」

「生きる　ｗｗｗ」

「逝けよ　ｗｗｗ」

「ヤダ　ｗｗｗ」

胴体の至るところを貫通させられ、脆い部分はもげ落ちたりしていった。

その中で、頭を貫通させられた屍は、次々と再起不能になつて、重力に従い、地に倒れ伏していった。

「うはwww死んでるwww

「俺りwwwはwwwとっくにwww死んでるwwwだろwww

「そつかwww

一方、ネメシスの方はといふと、本体の頭に被弾しないよう気をつけながら、盾にしていた。

「ヒドスwww

「ふん！アタイを無視したこと後悔するがいいわ！『氷符』アイシクルフォール』

今度は、まばらに飛ばされていた氷がまとまり、ネメシス達を囲むように飛ばされていった。

「・・・流石に少女を撃つほど冷酷じゃないしなあ・・・そうだ！」

またもやひらめいたネメシスは、盾にしていたゾンビを投げ捨て、「ワロエナイw」ゾンビの集団の元へと駆けていった。

落散ルノ（後書き）

・ とりあえず投稿・・・あんまし頭が回ってないから訂正するかも・・・

ク ラ ( r y )

## 逝ける先生（前書き）

ちきせう・・・深夜一時まで頑張つて書いたのに途中からネット繋がつてなくて消えたし。○rn

つてなわけでまた書き直しワロトナイ

Help Me EEEEEEERN!-!

「このトウイルス以上に危険な駄文ウィルスは、あの隠れ名医にも治せないのかッ！」

## 逃げる芝生

「まだまだ！」

未だにチルノが氷を放っている。

ネメシスはその氷の投機パターンと、チルノの行動を悟り、軽々と  
避けてゾンビの集団にたどり着いた。

「・・・悪く思わないでくれ」

「へ？ www」

たどり着いて真っ先に、ゾンビの頭を掴み、豪快に振りかぶって

「そういッ！」

「ア”アアアアアアアア！ www」

「ちょ wwwナイス wwwスイング www」

「ゾンビ wwwは www犠牲 wwwと wwwなつた wwwのだ www」

W

チルノ田掛けて思いつきり投げた・・・力加減?なにそれおいしいの?といった感じに

だが、タイラントは人間離れした筋力を持つており、ゾンビは腐食が進行している。

タイラントが振りかぶった瞬間、胴体はもげ落ち、屍が浮かべた気持ち悪いニヤけ面が飛んで行つた。

「キモツ!・・・ふ、フン!アタイにはそんなの効かないもんね!」

だが、ゾンビの犠牲虚しく、軽々と避けられてしまった。

避けられた頭は、そのまま田高く飛んで行き、星となってしまった。

『無茶しやがつてwww』

他のゾンビ達は、待つてましたと言わんばかりのニヤけ面で、綺麗に横一列になつて、星となつた場所に敬礼をした。

この横一列はネメシスにも好都合だったようで、順番に掴んで投げる、掴んで投げるを繰り返した。

投げられる方は

「うはwww次www俺wwwかwww」

「星wwwにwwwなつてwww来いwww」

「ゾンビwww逝つきwwwまーす！www」

迷惑とは思つてないよつで、むしろ嬉しさつい見える。

「なんでそんなに投げてくれるのよッ！」凍符『パーフェクトフリー  
ズ』”

「豆腐www」

「おいwww少しwww足りwwwないwww」

「頭腐www」

「イコールwww俺らwwwつか？www」

「上手くないわよーていつか凍符よー凍符！」

ゾンビ達の「コントにすかさずツッコミを入れたチルノ

(いいwwwツツ「ミwwwだwww君wwwはwww天才www  
だwwwバカwwwだけどwww)

そのチルノを見て、ゾンビがこんなことを思つて、チルノにグッド  
サインを出したまま、凍つた。

「うはwwwお七」

「おいwwwどうう」

敬礼したまま固まつていぐゾンビ達

沢山の強化された弾ゾンビが量産された。ネメシスも、拘束具となつていて  
たコートも一部が壊され、第二形態に突入した。

第一形態となつたネメシスは、沢山の手触手を使って量産された弾ゾンビを大  
量に投機する。

「そんな弾幕、チョロいもんよー」

だが、避けられてしまつ。

「なら、これはどうだッ?...」

手を使<sup>触手</sup>い、残つた全てを一気に投げ、転生したてに拾つたステインガーミサイル（ロケラン）とM202II-ガン（ガトリング）を装備した。

そして、トリガーハッピーの如く、チルノに向けて乱射した。

「ちょー！そんなの聞いてない！」

ガトリングの素早く重い一撃と遅くも追尾をするロケランの弾に同様し始めたチルノは、慌ただしくなった。

「おい、戦場ではその行動は命取りだぞ「ピチューンー」・・・墮ちちゃつた」

チルノは、謎の効果音を立てて、墜落していった。

とある紅の館にて、一人の少女が書斎で、魔法陣を作っていた。

「フフフ、あともう少しで願いが叶うわ……と、これで完成ね、あとこの起動は……2日後ぐ「パリーン！」キャアー！」

色々と設定している最中に、書斎の窓ガラスが割れ、4・5個何かが突っ込んできた。

「お嬢様！」

何事かと、その少女の従者が駆けつけてきた。

「一体なんなのよ……あ、ああああ……間違つて起動しち

やつた・・・

少女の台詞に、従者は魔法陣の方を見る。

魔法陣は、いかにも起動します。てな感じに怪しく光っていた。

「これは・・・」

「なんでこんな時に窓を割つて侵入して来るのがいる・・・の・・・よ・・・」

少女は、突つ込んできたものを睨みつけようとしたところを見た。

「お嬢様？」

従者は、主が顔面を蒼白にしているのに異常を感じ、同じ方向を見つめた。

突つ込んで来たものてや、言わずもがなネメシスとチルノの勝負の產物である。

そのネメシスの弾が、気持ち悪い笑みを浮かべながら自分達の方を見ている。（敬礼付き）

傍から見れば、笑える傑作モノだろうが、捉え方が違えばホラーも

のである。

つまり、何が言いたいかというと・・・

主と従者の悲鳴が、館中に響きわたった。

## 逝ける生（後書き）

相変わらずのDウイルス or 駄文z

そして書き直したけど、所々違っていたりする or z  
のちのち訂正加えるかもしれない  
あと、クレームや感想やその他もうもう、何かありましたらお待ち  
しております。

## 異変? なにそれおいしいの? (前書き)

サブタイ? なにそれおいしいの?

・・・とかまあ色々と氣にしたら生きていけないです。

「面白いwww」という感想が沢山来て、あらびっくり!

「何分、文章力の無いふつつか者ですが・・・よろしくお願いいいたします。」

あと、この回で一人称のテストをしてみます。

ので、ちょっと変でイヤだと思われた場合は、感染するとあれなのでブラウザバックを・・・オススメしたくありません; ;

・・・あれ? 一人称つて前にやつて失敗したなあ・・・

とうあえずその辺は設定説明でカバー!

異変? なにそれおいしいの?

S i d e N e m e s i s

「・・・いいのかな?」

俺は今モーレツに焦っている。

何故かつて? それは幼女を墜落させてしまったからさ

・・・しかし、第二形態からすぐには第一形態に戻れるということを知  
つたからだーでもいつか。

「・・・いいんだよね? 気にしなくても」

「いいんだおwww」

「うおー!」

また心臓に悪い登場の仕方をしてきたのは、ゾンビだ。

わつかまで死んでた(元からだけど)のに、やっぱ早いな・・・

この際ここにつき名前を付けよつたが、何分“www”といつ  
芝生が印象的すぎて”ゾンビ(笑)”しか思いつかない・・・

謎の電波を受信「あれwww突つ込まない? www」しようと、生憎そういう事が出来ない「おーい? www」身体のようだ。

いや・・・もしかしたら探せばいるかも「ワロエナイwww」しないし・・・ってか

「うぬむことよ? その腐つた頭を処分して欲しいわけ?」

「ハラスwwwあwww空www」

「ん?」

何気なく空を見てみる。

「・・・なんで紅いの?」

「知るかwww聞くなwwwしwww」

「いや、聞いてないし・・・むしろ黙つて？」

「www」

ん？あれ？どうまで話したつけ・・・

Side out

Side Zombie

最初に遭つた時はキリッとしたツツミが素敵だったのに・・・い

まやあのネメシスはドライ

「心 WWWは WWWドライ WWWだけど WWW身体はヌメリ WWW」

「ん?何言つてんの?・・・あれ?何か後半変じやなかつたか?」

「何 WWWが? WWW」

「・・・いや、なんでもねえ」

あ、そうやつ、本当は俺は” WWW” という表現がデフォルトじゃないんだ

あつぶねあぶね WWW

量産の方はデフォルトで出でしちまつやつだ。

さて、この機会を借りていろいろと説明していくつかな?

まず、この世界は幻想郷だね。

次に、俺ことゾンビは、基本的なモノとスキンを有名なホラーゲー  
から拝借させていただいてるんだ。

外見

ネメシスさんこと追跡者も、拝借させていただいてます。ハイ

ちなみに、転生の過程がネメシスには無いのは、俺が神(C P)  
OM)に頼んで消してもらったのを

転生させてくれた神も同じ

そして、この世界に俺らを送つて、俺に”www”とかいうふざけた発言を装着させて、色々とハチャメチャにグダグダにさせている神『ガタツ！』のためにも、ここでまとめてもらおう。

ん？なんか音が聞こえたって？幻聴だろ。

・・・まとめるにも俺ストーリーしか知らないから・・・これはまた今度だな

ん？あれ？じやあまとめられないやwww

(おかしい……ただ黙れって言つただけなのに、じんなに黙るなんて……)

ネメシスは、自分が書いた言葉に少し後悔をした。

(……故障か？いや、でも黙つていられると何か寂しいな……)

黙つてている時間が長いので、だんだん心配になつてきたネメシスは、試しに話かけてみることにした。

「なあ、ここの紅の空ひ、一体なんだと悪ひへ。」

「ん？あー、それ紅魔卿じやねえか？」

「あ」

「え？あ」

少しの沈黙……ネメシスが大きく息を吸い込んだ瞬間、ゾンビはすぐさま耳をもいだ。

「上りるんじやねえかあああああ……」

湖周辺の森一帯に、ネメシスの怒声が響きわたった。

「すまんwwwすまんwww」

「また着いてるし……」

「ん? wwwあれwww耳wwwがwww消えたwww」

ゾンビは、手元にあつたはずの耳が無いことに気がついた。

「だつたら仲間増やして探せばいいんじやね?」

「wwwどこだしwww」

耳が無いため、ゾンビには聞こえていない。

「あー……じゃあこの湖超えるから、追いつけよ?」

言つても返事がない……心配になつたネメシスは、地面に「湖の先に行つてくる」と書いた。

「んじゃ、追いつかよー」

そして、大胆に湖の中に飛び込んで行った。

やはりとある紅の館にて

ある地下室のドアの前に、従者が5体の凍つたゾンビを設置した。量産

「外見は恐ろしいけれど、きっと何かのお守りになるはず……」

そう、信じて……

## 異変？なにそれおいしいの？（後書き）

毎回夜中に思いついて深夜1時に書いて投稿しようとするが、すでにネット繋がっていないwww

幸いこのような状況を理解してtxtエキシメントで対策したからよかつたものを・・・

このよつたな小説（？）に感想などを沢山ください、誠に有難う御座います。

厨一分を摂取したいが故に、ちょっとむつかしい漢字つを増やしてみたり・・・

なんてことは無いと思つますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

ちなみに、今回のゾンビは故障します故に・・・

P.S 前の小説のように、おくげフンゲフン・・・皆様が面白いと言つてくださつたので、力が湧きましたwww

俺たちは無数の#生部隊ー（壇場や）

もつねブタイなんてどーでもこーせー…

早めの更新です。

「あー、あつたあつた。」

ネメシスが立ち去ったあともずっと耳を探して30分、ゾンビは、ようやく耳をセットで見つけた。

「で、この耳を元あつた場所にへりつけて……シ……ヒ、これでよし。」

耳を装着した後、周りを見渡す。

「あー聴覚障害があるのと無いのでは、世界は違うな……こじても、バレちまつたなあ」

自分のやつらの行動を思に出し、少しだけ後悔する。

そして、また周りを見渡す。

「……やつこえば、あこついねえな……どこ行ったんだ？」

ネメシスがないこと」に、やつと、氣味も、思考を巡らせる。

・・・途中で面倒になり、地に伏せて、仲間を増やす

「うはwwwお久www

「おwwwようwww

「なんだ? www

そして、仲間を12匹作ったところで、みんなに並立つ位置に立ち、宣言する。

「隊列を組め! 空想を叩く前と後に"サー"と言えー! 虫けらじもー!」

（ザツザツザツザツ・・・）

「右良し！ 左良し！ 前良し！ 後ろ良し！」

（ザツザツザツザツ・・・）

「俺たちや無敵の再生部隊！」

『俺たちや無敵の再生部隊』

「俺がするのは笑うこと！」

『俺がする笑う』

「走つてよし！」

『走つてよし』

「笑つて良し！」

『笑つてよし』

「いいやけて良しー。」

『いいやけてwww良しーwww』

「全部良しー。」

『全部www良しーwww』

・・・湖を沿ひよひして、一列に並んだ見事な隊列が前進していた。

その隊列の先頭には、かのハーン軍曹と思わしき服装をしている者がおり、その後ろに続くものは皆兵装している。

「むンー。」の気配・・・

突然、ハーマ 軍曹が立ち止まった。

後ろに続く者たちは、なんだなんだ?とザワつき始める。

「腐れきったウジ虫どもー。その虫けらのそうな分際で、丸腰のまま戦闘に駆り出してやるほど私は鬼畜ではないー。よって、ありがたく貴様らに武器を選ばせてやるー。」

・・・もつゝの軍曹、役にノリすぎである。

「どうやらこの辺には活発になつてゐる妖精がいるらしい。私の知識が正しければ武器となるはずだ！」

未だに追いつけてない計一、二匹の兵士達は、軍曹の話を、耳をかっぽじるように聞いている。

「一人一匹捕まえていい。捕まえられなかつた奴はこの湖を100周だ！わかつたか？」

兵士達は頷く

「よし・・・今から30分だ！30分でお氣に入りの娘・・・お氣に入りの妖精を持つてこい！わかつたなら返事をしろ！分かつてなぐても返事をしろ！」

『サー、Wイエッサー、Wwww』

「なら、さつとと行け！」

『サー、Wイエッサー、Wwww』

軍曹に、45度の最上級の敬礼をし、妖精”狩り”に出かけた兵士達

軍曹は、それに軽く敬礼した後、ストップウォッチを取り出す。

? 30分後?

「は、離せ!」

「ひやわー! ちよつとじー! 触つてんのよー。」

「つええん! チルノちやーん!」

「ひんな奴ら・・・あたしの弾幕で倒せたのに・・・クッ」

個々様々な妖精を持つて戻ってきた。

中には縁の髪でサイドテールを結んでいて、見た目からして明らかに他のと違う妖精もいたが、氣のせいだろ？。

「ちよ wwwwww暴wwwれるwwwとwww危wwwないwww」

「おとwwwなしくwww捕wwwまたwww」

「www大ちゃんwww捕wwwまたwww」

・・・氣のせいでは無かつた・・・

妖精を持ってきた兵士達は、いつもに増して恐ろしく見えた。

幼女な妖精しかいなかつたからか・・・はたまたいつも以上にニヤついてるからか・・・

「よーしッ！では、これから妖精を武器として扱えるように調教しておけ！あとで射撃テストをするぞ！わかつたら返事をしろ！分かってなくとも返事をしろ！」

『サーwwwイエツサーwww』

一方その頃、ネメシスは

「・・・迷つた・・・泣きたくなつてきた。」

ゾンビ宛に文字を書いた後、森に入つてある程度進んだ途端に、デカイ蜘蛛が出てくるわ無数の触手を持つた液体状の生き物に遭遇するわ両腕が仕込み刀の甚平を着た男と、その相棒に殺されかけたりと・・・

とにかく色々なことがあり、道に迷つてゐる。

「ああ！なんでこんなところに来ちまつたんだよ・・・ん？」

ネメシスは、ふと空を見上げてみる。

「なんだりや・・・あの簫にまたがつてるのは間違いなく魔女だな・・・片方は・・・巫女？」

「・・・なあ、靈夢」

「ん? 何?」

とある森の道にて、飛行している少女達

声をかけた少女は、いかにも私は魔法使いです。といつた白黒のエプロンドレスのような服装をしており、頭にトンガリ帽子を被つて

い。

靈夢と呼ばれた少女は、脇を露出した巫女服を着ている。

「（）の妖精の数、少なくないか？」

魔法使いが問う

「もうねー・・・でも楽だから気にしないでいいでしょ」

巫女が応える。

「いや、楽だからって・・・」

「楽に終わらせられるならそれでいいのー先行くわよー。」

魔女は反論しようと思つたが、巫女は適当に返し、スピードを上げる

「ま、待ってくれよー。」

それに追いつくように魔法使いもスピードを上げる。

## 俺たちも無敵のN生部隊ー（後書き）

・・・今時”どひひ”なんて知ってる奴、あんまりいないか。orz

映画=クゾ ゲーム=最高 漫画=知らない

だもんな・・・

あー、やっぱり締めが良くない・・・

クレームや感想やその他もひ、何かありましたらよろしくおねがいいたします。

## 私は謹謹N-好む一異論は認めなご（キコシ（謹書也）

・・・サブタイでとんでもなく恥ずかしこいとを公言した。これ  
だが、やはりトキト一なので、「真面目なサブタイ考えてくれ」と  
いつ断りが来るまで

異論は認めなご（キコシ

あ、やつやつ、最初はゾンビから始まります。

・・・色々とややこしいので、本体の方は、"NB"にしておそれます。

私は謹詫ノ好きである一異論は認めなこ（キリッ

30分後

「よおーしークソッタレジモー・キナマリの武器とやらの出来を見せてもらおうかッ！」

『サー ワイエッサー ワワワ』

それぞれどこかに行つていたゾンビ達が集合した。

気になる妖精の方はといつと・・・何があつたのか、目から光が消え、未だにビクビク怯えている。

「いいかー少しでもダメだつたら最上級の盾として使つてやるぞー！」

『サー ワイエッサー ワワワ』

「よオレッ！ そのクソッタレたニヤケ面に見合ひ娘・・・（じゃなかつた）武器を構えるー！」

「ーの抱えー」

『サー ワイエッサー ワワワ』

「ヒツー！」

# ゾンビ達が一斉に妖精を抱え

## 「一の構え！」

『 サー ウイエッサー ウ ウ ウ ウ 』

妖精の手を掴み、前に突き出して

「三に狙え！」

『 サー ウイエッサー ウ ウ ウ ウ

妖精の顔の横に、ニヤけ面をくつつけて、手の中指に、テキトーな木を合わせ

その時の妖精は、更に恐怖に怯えた。

「四に撃て！」

ＺＢの号令の後、それぞれの手の平から光が現れ、大量の弾幕が飛

び出した。

「フフフ・・・上出来だ虫けらども一よしつ一武器も手に入れたことだ!さつさと前進するぞ!」

『サー w イエッサー w w w』

ゾンビがZBを戦闘に、2列に並ぶ

「俺らの敵はリア充!」

『俺ら w w w の w w w 敵 w w w は w w w リア w w w 充! w w w』

「奴らになさけは無用だ!」

『奴ら w w w に w w w 情 w w w は w w w 無用 w w w だ! w w w』

「喧嘩売れ!」

『喧嘩 w w w 売れ! w w w』

「邪魔をしろ!」

『邪魔 w w w を w w w しろ! w w w』

・・・N.B率いる生部隊は、湖に沿つて、前に進んでいった。

魔女や巫女を見かけてから數十分  
やつとのことで開けた道に到着

あの後も、奇声をあげながら木と木を渡る男性がら逃げたり、頭が

S i d e N e m e s i s

爺さんで身体がミノムシの奴から道を聞き出そうとして、異世界に引き込まれかけたり、目から血の涙みたいなのを流しながら、奇妙に笑っている農民を見かけたり・・・とにかくまた色々あつた。

そこで浮かんだ感想が一つ

「いじつて・・・なんでもアリなんだな・・・」

テキトーに回想しながら道に進んでいると・・・

「ウ”ツ！・・・ハア・・・・ハア・・・・」

衛生兵を要請しそうな状態の中華服の美女を発見！

すぐさまその美女に駆け寄る

「だ、大丈夫ですか？！」

見知らぬ怪我人に声をかける時の第一声は、これに限る

「ツ・・・あつあなたは・・・グツ・・・誰で・・・す・・・か・・

・」

美女がこちらを見た瞬間に、更に青くなつたんだが……しかも何氣にお祈りまではじめちゃつた？！

「あ、えと、大丈夫ですよ？普通に通りかかった人ですから、それに、（このように怪我をしている人を）こんな時に襲えるわけが無いじゃないですか……と、りあえずどこか安全なところに……つて……」

わざとより青くなつて、しかもお祈りの速度も上がつてゐる……

あ、氣絶した。と、りあえずこの美女を木の上のもつてつて……と、ここにかけておけばいいかな？

まあ、この女性はもういいかな？と、りあえず先に……つて、館が建つてゐるし

と、りあえず、お邪魔しまーす。

「ザツザツザツザツザ  
・・・」

「美少女見つけたら攫つておけ！」

『美女でもいいから攫つておけ！』

『美女でもいいから攫つておけ』

「リア充は！」

『リア充wwwは！www』

「爆破しろ！」

『爆破 WWW しろ！ WWW』

「消毒だ！」

『消毒 WWW だ！ WWW』

「消え失せろ！」

『消え WWW 失せ WWW ろ！ WWW』

・・・段々行進歌が危なくなってきたる芝生部隊

「むつ・・・全たーい、止まれ！」

ビシッと効果音が付きそつた感じに、妖精を抱えたまま止まるゾンビ部隊

「前方に洋館が見える！最初は空だけだったのに、だんだん霧になつてきているので、絶対離れるな！と、最初に言つておけばよかつたが、はぐれている者はいないかッ？」

今更注意事項を述べるNB

「おいwwwー草兵wwwはwwwどwwwだ?www

「いじwwwだwww

「はぐれたwwwバカwwwは?www

「俺www

「嘘www言うなwwwしwwwいるwwwはぐれwwwじやねえかwww

「俺wwwのwww片目wwwがwwwはぐれwwwましたwww  
「そうかwww殘念wwwだつたなwww軍草wwwみんなwww  
いますwww

「よし、では、前方に何があるか見えるか?」

進む先を指差し、尋ねる

「洋www館?www

「うはwww先祖www様wwwのwww家www

「俺のwwwじいちゃんwww5体www不www満足wwwだw  
ww

「うはwwwサイキヨーwww

「・・・そつだ！館だ！今から俺たちの目的はあの館に侵入する」とだ！」

「フフオーヽWWWWスWWWW不法WWWW侵入WWWW

「おいWWWW俺らWWWWにWWWW人權WWWW無いWWWWだろWWWW

「そつかWWWW

「では、行くぞ！」

「ザツザツザツザツザ・・・」

芝生部隊は、まだまだ前進していく。

私は謹謹N-好むやあるー累謹は謹めなご (キコシ (後書き))

・・・ もう、 もう でも こー や ・・・

とりあえず、 . . . \* Happy - New - Year \* . . .

今年も良いお年でありますように。

つて言つと、自分だけがアレなので

ただハッピーニューカー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5420z/>

---

ネメシスとして幻想入り

2011年12月31日22時48分発行